



日本SPF豚協会だより

2024. 1
No. 94

提 言

辰年に思う。

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究部門 所長

勝田 賢



あけましておめでとうございます。辰年を迎え、新たな一年が始まります。この年に思うことは、畜産業、特に家畜衛生において直面している課題に関係者が共に立ち向かい、協力して解決していくことの重要性です。

動物はヒトと深い関係を保ち、私たちの生活の中で重要な役割を担っています。特に、家畜から得られる牛乳、肉類、卵などの畜産物は、良質なタンパク質の供給源としてだけでなく、豊かな食卓の象徴としても高い価値を持ち、我々の食生活を潤しています。現在、わが国の畜産は、飼料・資材・エネルギー価格の高騰や円安に加え、記録的な猛暑による影響などに直面し、非常に厳しい状況が続いています。加えて、世界の畜産物生産の20%以上が感染症で失われると言われており、家畜感染症は畜産にとって最大の脅威となっています。わが国の家畜衛生に関しましても、高病原性鳥インフルエンザや豚熱などに加え、下痢、肺炎などの常在性疾病による生産性阻害、国際的な課題でもある薬剤耐性菌対策など、様々な問題が存在しており、関係者が一丸となって対策を取る必要があります。

26年ぶりの発生となった豚熱では、発生農場での摘発・淘汰、養豚場での衛生管理対策の強化とその徹底、飼養豚へのワクチン接種や野生イノシシへの経口ワクチンの使用などの対策により、その発生が散発的となっていましたが、昨年8月末に、これまで陽性イノシシや飼養豚で発生の確認されていなかった九州佐賀県で2件の発生が認められました。幸いなことに、九州での続発や豚熱陽性野生イノシシの摘発報告はありませんが、これまで以上に緊張感を持った対応が求められています。われわれ、養豚や家畜衛生に関わる者は、立場や考え方の違いはあれども、「豚熱清浄化」と言う同じ目標に向け、協力して解決していくことが重要だと思えます。

海外、特にアジア諸国に目を向けますと、口蹄疫やアフリカ豚熱など、重要な家畜伝染病の発生が続いており、予断を許さない状況になっています。豚の感染症ではありませんが、10月に韓国で発生

したランピースキン病*は、2週間ほどで韓国全土に広がり、改めて家畜感染症の深刻さを認識させる事態となっています。新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う入国制限の終了や円安を受けて、訪日外国人が急激に増加しており、今後、人・物の移動が活性化する事に伴い越境性動物疾病の国内侵入リスクも高まってきています。わが国では、水際で侵入を防止する対策が講じられていますが、生産現場においても衛生管理の徹底や、職員や技能実習生への教育・訓練などを改めてお願いしたいと思えます。

感染症はウイルスや細菌などの病気を起こす病原体、その病原体に感受性をもつ動物、そして病原体と感受性動物を繋ぐ感染経路、この3つの要素が揃ったときに初めて発生します。逆に言えば、どれかひとつでも欠ければ感染症は発生しないことになります。最近の重要家畜伝染病発生時の疫学調査報告書では、農場でのバイオセキュリティ上の問題点が指摘されることがあります。野生動物の侵入防止など新たな課題もありますが、その一方で車両の消毒や衣服、靴の消毒、交換など長い間言い続けられている課題も多いように思います。SPF認定農場では、衣服や長靴の着替えや履き替えに加え、シャワーイン・シャワーアウトや交差汚染防止のためのワンウェイの原則などに関しては、日常的に取り組まれていると思えますが、新年にあたり、今一度の点検をお願いしたいと思います。

農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門は、1921年に農商務省獣疫調査所として設立されて以来、国内で唯一の動物衛生の研究機関として、様々な機関と連携しながらわが国の家畜衛生行政を科学的な側面から支えてきました。今後も、各関係機関と連携しながら、その要望に応え、これまで以上に社会に役に立てる動物衛生研究部門を目指して職員一同頑張ってまいりますので、引き続き、一層のご支援とご協力を賜りたくよりしくお願いいたします。辰年は、干支として龍とも関連づけられ、その力強いエネルギーが未来への努力・挑戦を象徴していると言われています。辰年をより良い年にするために共に努力・挑戦してまいりましょう。

SPF豚セミナーを1月25日に開催

表彰農場が決定、表彰式も会場にて実施 懇親会も復活します

前号でお知らせした令和5年度のSPF豚セミナーは、1月25日(木)、東京都千代田区のKKRホテル東京にて開催いたします。開催要項は次ページの通りです。

昨年同様、会場参加とオンライン参加のハイブリッド方式といたしました。会場は70名、オンライン参加90名限定です。今回は懇親会も5年ぶりに復活させることといたしました。

会員の皆さんはもちろんどなたでもご参加いただけますが、参加費は会員と会員外で金額が異なりますのでご注意ください。

ださい。

昨年9月1日、表彰農場選考委員会を開催いたしました。審査の結果、今年度の総合生産成績部門および商品化頭数部門最優秀農場は、いずれも有限会社高橋畜産(北海道、ホクレンピラミッド)に決定いたしました。高橋畜産は初めて選考基準を満たした昨年度、総合生産成績部門最優秀賞となった農場です。同部門で2年連続、商品化頭数部門では初受賞となり、見事2冠を達成されました。セミナーの会場で

令和5年度SPF豚セミナー開催要項

開催日時：2024年1月25日(木) 13:00～17:00

場 所：KKR HOTEL TOKYO (東京都千代田区大手町1-4-1) 11階「丹頂の間」

<https://www.kkr-hotel-tokyo.gr.jp/>

<プログラム>

- | | |
|-------------------------------------|-------------|
| 開会のあいさつ..... | 13:00～13:05 |
| 1) CM認定農場生産成績年次報告(2022年度)..... | 13:05～13:30 |
| 小林一彦・日本SPF豚協会専務理事 | |
| 2) 生産成績優秀CM農場表彰..... | 13:30～13:50 |
| 選考結果報告・講評 | |
| 表彰 | |
| 総合生産成績部門最優秀農場 (有)高橋畜産(ホクレンピラミッド) | |
| 商品化頭数部門最優秀農場 (有)高橋畜産(ホクレンピラミッド) | |
| 3) 事例発表「高成績を維持するための農場管理のポイント」..... | 14:00～14:40 |
| 発表者：(有)高橋畜産 | |
| 休 憩..... | 14:40～15:00 |
| 4) 講演「薬剤耐性(AMR)対策アクションプランについて」..... | 15:00～15:30 |
| 講師：農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課 | |
| 5) 講演「アニマルウエルフェア(AW)指針について」..... | 15:30～16:00 |
| 講師：農林水産省畜産局畜産振興課 | |

選考委員長である濱岡隆文認定委員長に講評いただき、表彰式を執り行います。高橋畜産には高成績を維持するための農場管理のポイントについてご報告をお願いしております。成績アップの参考となるお話が伺えると思います。

その他の講演等は次の通りです。まず、国を挙げて取り組み、今年度新たなアクションプランが策定された「薬剤耐性（AMR）対策」について農林水産省消費・安全局畜産安全管理課の専門家にご説明いただきます。次に、新たに国が策定した「アニマルウェルフェア（AW）指針」について、農林水産省畜産局畜産振興課にご解説をお願いしております。

最後に「農場で役立つバイオセキュリティ」と題し、高い生産性を誇る大規模農場を率いる、八幡平養豚グループの大泉俊昭常務理事にご講演いただきます。飼養衛生管理基準遵守を遵守し、高い衛生レベルを維持するために気をつけ

ていること、コツや工夫など、現場で実際に取り組んでいる事例についてお話しいただきます。すぐに役立つ実践的なお話を伺えると思います。

このほかセミナー恒例の「CM農場生産成績年次報告」も行います。故藤田世秀前協会専務理事に代わり小林一彦専務理事が報告いたします。

セミナー終了後には、皆さんからご要望が多かった懇親会も開催いたします。2019年の協会創立50周年記念セミナー以来、実に5年ぶりの復活となります。貴重な交流、情報交換の場となると思います。なお、会員以外の方は懇親会込みの参加費となっております。

急なご案内となり恐れ入りますが、人数も限定しておりますので、開催要項を参照の上お早めにお申し込み下さい。多くの方のご参加をお待ちしております。

6) 講演「農場で役立つバイオセキュリティ」.....16:00～16:50

講師：大泉俊昭・八幡平養豚組合常務理事

閉会のあいさつ

懇親会.....17:30～19:30

<参加費> 協会会員：セミナー無料、懇親会費5,000円 会員以外：10,000円（懇親会費含む）

<お申し込みについて>

右のQRコードまたはURLから申し込みサイトにアクセスしてください。

折り返し事務局よりご連絡差し上げます。自動返信ではありませんのでご了承ください。

https://docs.google.com/forms/d/1unhJbC4JUPoiBQqdqKR_5QjjFID8tfJidgQvbd7y9r0/edit



**FAXでも
お申込みいただけます。**
FAX.
03-5835-5376

- ①所属・お名前
 - ②メールアドレスまたは連絡先
 - ③実参加・オンライン参加のいずれか
 - ④懇親会参加・不参加のいずれか
- を明記の上、左記までFAXをお送り下さい。
折り返し事務局よりご連絡差し上げます。

アドレス等お間違えのないようご注意の上お申し込みください。

会場参加70名、オンライン参加90名になり次第締め切らせていただきます。

<問い合わせ先>

協会事務局

j.spf.a@nifty.com TEL.03-5835-5375 , 070-4108-3825

第16回

農場バイオセキュリティ強化のための最新情報



湿度と健康 (2)

アニマル・バイオセキュリティ・コンサルティング(株)

三宅真佐男

前号では高い湿度が人のCOVID19の拡大抑制と終息を早めること、新生豚の生存に寄与する例を示しました。今回は先ず5週齢の子豚を温度20～25℃で5頭ずつ4つの湿度環境で30日間飼養し、6週齢で豚胸膜肺炎菌(App) 5型に感染させた鄭の実験結果です(表1)。湿度が日増体重と飼料要求率に影響することが分かりますが、臨床症状も湿度が最低の区では重篤な元氣消失、発咳があり、剖検結果も肺炎病変が認められました。

次は、温度制御可能な秋期のピット式ウインドレス離乳舎の例です。温度は導入時29℃、30日後22℃に設定すると、インレット開度、温湯循環量、排気量が制御されてほぼ設定どおりになります。湿度は舎外の天候や気温に影響され大きく日内変動しながら、設定温度の低下に伴い80%から徐々に60%に低下することが分かります(図1)。この離乳舎では46日後のDGは490gでした。

総じて子豚期は温度と共に高めの湿度がよいことが分かります。湿度を上げるには湿源と加温設備が必要で、豚のいる床面を濡らすことは禁忌です。子豚期は湿度70～80%、成豚でも50～60%程度が目安でしょう。

最後に、人の生活環境中の微生物その他の発生と相対湿度の関係を図2に示します。湿度40～60%が最適ゾーンとして示されています。また、表2はインフルエンザウイルスが高い湿度で不活化される資料です。このように適度な湿度は人と豚の健康維持に欠かせません。

試験区(各5頭)	1	2	3	4
相対湿度 %	30～40	41～50	51～64	65～80
日増体重 g	434.3	456.7	488.6	574.5
飼料要求率	2.89	2.65	2.29	2.07

鄭 賢圭 PIG JOURNAL 2001.11,50-51

表1 App 感染子豚に4つの湿度環境が及ぼす影響

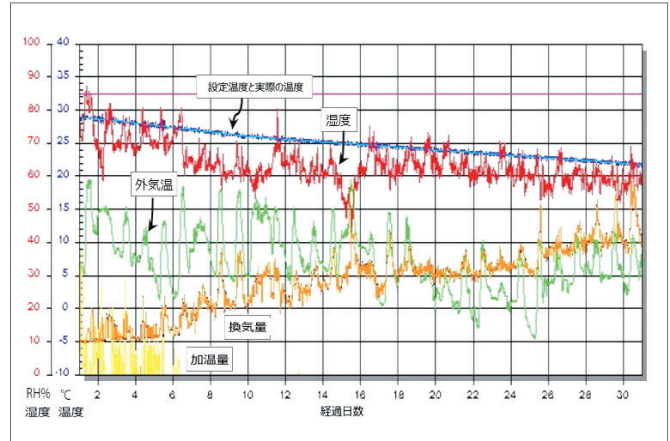


図1 ピット式ウインドレス離乳舎の温度と湿度

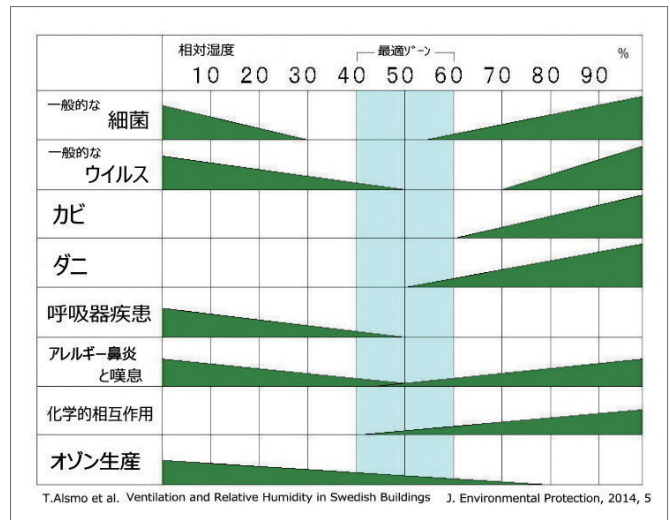


図2 人の環境中の微生物その他の発生と相対湿度

絶対湿度 g/m ³	20℃における相対湿度 %	インフルエンザウイルスの生存率 %
17	93	0
11	63	5
7	41	20
5	28	35～66

片山眞ら 季節性インフルエンザの流行と絶対湿度 2 臨床と研究.vol 88-2 119-126.2011データから作表

表2 インフルエンザウイルスの湿度と生存性

TOPICS



Big Dutchman.の
オプティスキャン

OptiScan: 体重測定スキャナーの ご紹介

フジ化成株式会社
貿易担当
レオン・ヘナロ



OptiScanは、約50～125kgの肥育豚の体重を光学測定できる製品です。3Dと赤外線カメラ付きスキャナーで豚の形状と高さを立体的に計測し、そのデータを基に肥育豚の体重を測定します。体重はタブレット端末に表示されます。

【光学測定の利点】

●体重変動の補正

肥育豚の体重は、飼料や水分摂取の影響で1日に約3.5kg変動します。OptiScanはこの変動を平均体重で補正するため、出荷体重に満たない豚の出荷を防ぐことができます。

●ストレスフリー測定

体重測定の際、別の場所に移動させる必要がないため、スタッフの作業負担と豚のストレスが軽減し、時間とコストの節約にもつながります。

●スムーズな測定

OptiScanは個々の豚をスキャンするだけで素早く体重を測定、データ管理を可能にします。

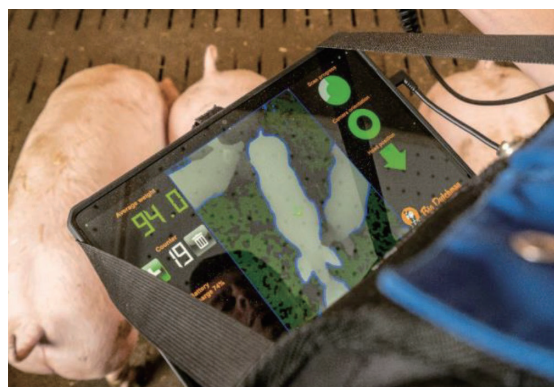
【OptiScan 構成品】

1. OptiScanを搭載したタブレット
2. 3Dと赤外線カメラ付きスキャナー
3. サポートベスト
4. 保管ケース



【測定手順】

1. 開始前にタブレットを収納するサポートベストを着用し、タブレットとスキャナーを接続しOptiScanを起動します。
2. スキャナーを豚の真上に掲げスキャンボタンを押すと、計測の進行状況など、詳細情報がタブレットに表示されます。
3. 測定された体重はデータとしてファイルに保存され(Excelに出力可能)、データを正確に分析できます。バッテリーは2～3時間持続します。



【その他の製品】

Vento III : 空調と生産を管理するトンネルインレット用コンピュータ。シンプルな機能を搭載しており使いやすく簡単に設置できます。

Activel : 分娩の施設でアニマルウェルフェア基準を満たす可変型の柵です。

Airmaster Blue 170C : 非常に高い風力性能、最小限のエネルギー消費、空力設計、腐食に対する耐性があります。

Easyslider : コンピュータ制御による個別給餌システム。母猪の餌の摂取量とタイミングを設定できます。

<問い合わせ先>

フジ化成株式会社

Big Dutchman 製品担当 : レオン、岡

TEL : 096-245-3711

E-mail : g-leon@fujikasei-japan.net

協会からのお知らせ

●次世代研修会を開催しました

協会では、次代を担う若い人がSPF養豚・協会事業への理解を深め所属、担当を越えて交流する機会を設けることが重要だと考えております。まず第1弾として、昨年11月29日、協会事務所において生産ピラミッドおよび関連組織の若手を対象とした次世代研修・意見交換会を開催いたしました。内容は「SPF豚認定基準って何だー生産指数の仕組みと、農場指導への応用の仕方」(講師：小林一彦・協会専務理事)、「ヘルスチェックの要点ーと畜場で怒られたり、邪魔にされずにしっかり検査するためには」(講師：上大迫秀作・認定委員)、「農場で必要な法令遵守の知識」(講師：鷺谷敏一会長)、「会員生産者とともに取り組んだ規模拡大や生産性向上事例」(講師：梶野優紀氏(ホクレン旭川支所、出席者))と盛りだくさん。予定時間を大幅に超え、最後の講演「口蹄疫、豚熱から新型コロナまで、みんなの素朴な疑問から学術論文の読み解きー現場で役立つウイルス学の勧め」(講師：山田俊治・認定副委員長)は時間の都合でごく一部となってしまい、続きはぜひ次回ということになりました。

参加者は実参加13名、リモート参加4名の計17名。主催者側を含めると20名を越す人数となり、協会事務所では手狭で、参加者の皆さまにご不便、ご迷惑をおかけすることとなりました。研修会終了後には懇親会を開催、意見交換、交流の場としていただけたかと思えます。

参加者の皆さんからは「とてもよい機会となった」、「次回もぜひ参加したい」等々たくさんの感想・意見をいただきました。今後の参考にさせていただきたいと思えます。

出席者、講師の方々には長時間誠にありがとうございました。



第2弾、第3弾と続けていきたいと思えますので、ご理解・ご協力のほどお願いいたします。

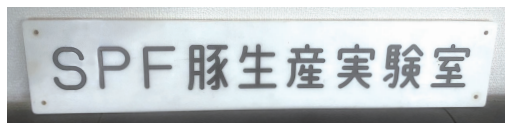
●理事・代議員の交代

組織内人事異動に伴い、中国・四国選出代議員および理事が小椋和典氏(鳥取県、(株)西日本ジェイエイ畜産)から宇留野勝好氏に交代いたしました。

また、関東地区選出代議員の綱島良信氏(千葉県、(株)ツナシマ)および細谷広平氏(群馬県、(有)ほそや)がそれぞれ辞任いたしました。

●SPF豚作出施設の看板を寄贈いただきました

故柏崎守前SPF豚農場認定委員長(2017年逝去)のご遺族より、東京都小平市にあった家畜衛生試験場(家衛試、現農研機構動物衛生研究部門)の「SPF豚生産実験室」の看板を協会に寄贈いただきました。ご子息の柏崎仁さんのお話では、家衛試が小平市から茨城県つくば市に移転する際に持ち帰り、保管されていたのではとのことでした。我が国のSPF豚第1号



が作出された歴史ある建物の看板です。仁さんからは、先生がまとめられた当時の貴重な写真や設計図等の資料もご寄贈いただきました。協会の財産として大切に、今後活かしたいと思います。ありがとうございました。

●日本SPF豚研究会が開催されました

昨年10月30日、AP八重洲東京(東京都中央区)において2023年度の定期総会および第31回研究会を開催しました。会場参加とオンライン参加のハイブリッド方式とし、終了後の懇親会も4年ぶりの復活となりました。

研究会の講演では、8月に急逝した藤田世秀前協会専務理事に代わって坂口一平協会副会長が令和4年度日本SPF豚協会CM農場年次報告を行いました。

プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



蒸豚バラ大根

●レシピ提供・おかか北浜（大阪市中央区）

住吉 耕生

冬本番、今回は定番の豚バラ大根を、塩味の蒸し料理であっさりいただくレシピをご紹介します。バラ肉の旨味が大根にしっかり染み込みそうですね。ネギソースもさっぱりと美味しそうです。ぜひお試しください。

●材料 ●（2人前）

SPF 豚バラブロック 300g
 塩（豚バラ用） 5g
 大根 200g
 塩（大根用） 0.2g
 水 大根が軽く浸かる程度
 料理酒 30cc
 <ネギソース>
 青ネギ 2本
 しょうゆ 30cc
 酢 30cc

●つくり方 ●

- ① 大根は皮を剥き、2mm くらいの半月切りにします。
- ② 豚バラブロック肉はフォークなどで数回刺して穴を開け、塩（肉用）を揉み込みます。
- ③ 鍋底に①を平らになるように並べ、塩（大根用）を振ります。その上に②をのせ、水と料理酒を加えて中火で煮立てます。煮立ったら蓋をして弱火で20～25分蒸します。
- ④ ③の肉を取り出し、ラップをして粗熱を取ります。その間に青ネギを刻み、ソースの材料を合わせておきます。
- ⑤ 肉をスライスしてお皿に盛り付けます。
- ⑥ 大根を盛り付け、蒸し汁をかけます。
- ⑦ ネギソースをかけ、青ネギをのせて完成です。

★住吉シェフからのアドバイス

大根を並べた上に豚バラブロックをのせると同時に蒸すことができ、肉の旨味を大根に馴染ませることができます。ネギソースはお好みで唐辛子、ゴマ、生姜などを加えても美味しいですよ。蒸し汁はスープなどに使うのもおすすめです。

認定情報

●2023年12月認定農場

（有効期間：2023年12月14日から24年12月末日まで）

北海道・ホクレン滝川・スワインステーション、全農飼料畜産中央研究所上士幌種豚育種研究室、(有)道南アグロ、富良野スワインファーム(有)、(有)サクセス森、青森県・(有)ふなばやし農産繁殖農場、同子豚農場、同肥育農場、同第3農場、岩手県・(有)ケイアイファウム玉山農場、(株)さいとうふぁーむ繁殖農場、同肥育農場、(有)胆沢養豚、カワムラSPFファーム、北日本JA畜産(株)本社農場、秋田県・(有)ポークランド、山形県・(有)最上川ファーム、茨城県・(有)常陸牧場、群馬県・ピッグファームゴカン、千葉県・(株)愛東ファーム銚子農場、同東庄農場、高森養豚、小長谷

※次回認定委員会は2024年3月7日(木)の予定

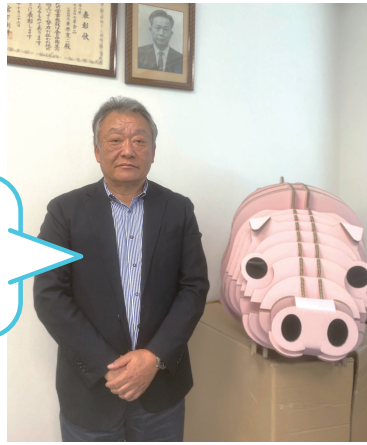
養豚、(有)菅井物産SPF農場、(株)下山農場岩井農場、同倉橋農場、岡山県・岡山JA畜産(株)吉備農場、同田淵農場、愛媛県・太平洋ブリーディング(株)愛媛農場大川、同愛媛農場丹原、(株)多田ファーム、同天貢農場、(有)協栄ファーム久万C&Pファクトリー、同丹原C&Pファクトリー、大分県・JA北九州ファーム(株)直入農場、同安岐農場、長崎県・大西海ファーム、(有)芳寿牧場口之津牧場、同国見牧場、同島原農場、同新島原農場、同新国見農場、(有)ワールドファーム有明農場、同瑞穂農場、宮崎県・ジャパンミート(株)夏尾農場、(有)ナガトモ、鹿児島県・(有)エクセルファーム湧水農場（以上47農場）

※9月の認定委員会において3か月間の認定期間延長が認められ、今回認定された農場
 （有効期間：2023年12月14日から2024年9月末日まで）

宮崎県・(株)ファームテック大口農場



株式会社 七星食品
池田員美さん
(香川県さぬき市)



生産から販売、ワンヘルス、AW、SDGsまで 「できないことに燃える」豚のスペシャリスト

株式会社七星食品は豚肉の生産、加工、流通まですべて行う、四国を代表する会社です。創業は1951年、香川県高松市内の精肉店からスタート、卸業、カット業と経営拡大する中、肉豚の預託事業から直営農場での生産、外食事業へも進出、6次産業化を実現させています。徳島県にある阿波ファーム(繁殖)、美波ファーム(肥育)は2サイト農場として協会認定を受けているSPF豚農場です。

今回ご紹介する池田員美さんは専務取締役、協会の中国・四国選出代議員をお務めいただいております。

池田さんは地元さぬき市出身、高校卒業後、親族が役員だった七星食品に入社します。食肉部門勤務を経て、21歳で子豚市場担当に。「大型免許を取得させてくれたのはいいのですが、すぐに一人で運転し、徳島、高知の市場を回って、契約農家に子豚を運ぶ仕事でした」。当時の農場は出入荷台もなく、30kgの子豚を一頭一頭抱えて移動させるという大変な作業を繰り返し、10軒の契約農家を回ったそうです。「おかげで腕相撲では負けたことがなかったですね(笑)」。2階建ての搬送トラックも一人で洗浄・消毒というハードな毎日だったそうです。獣医志望だったという池田さん、当時病気が蔓延していた預託農場を改善しようとハードワークの傍ら養豚技術、疾病対策を学び、農場指導も行いながら清浄化に取り組んだそうです。

池田さんは自分のことを「できないことがあると燃えるタイプ」とおっしゃいます。

目指したのは病気からの解放、水(取排水)からの解放、ストレスからの解放の「三つの解放」。農場外への排水ゼロ、処理水による液肥製造・海への施肥、アニマルウェルフェア(AW)、薬剤耐性(AMR)対策(ワンヘルス)、SDGsの取り組みまで、行政に先駆けて取り組んでいます。

これらの取り組みにはもちろんコストもかかりますが、長い間信頼関係を築いてきた取引先「コープ自然派事業連合」の理解もあるそうです。自農場の豚革を重金属系の薬品を使わないなめし技術で製品化したところ、フランスの某超高級ブランド店が視察に訪れ、採用されたとのこと。

次々にいろいろなアイデアを実現させ、豚ひとすじまもなく50年。仕事漬けの毎日かと思いきや、ご趣味は?と伺うとスマホのメモに「趣味一覧」が。車、バイク、自転車、山登り、天体写真、釣り、ゴルフにドローン操縦、カラオケ…。しかもどれも本格的、遊びも規格外の方のようです。高校の同級生で美容師の奥様との共通の趣味は山登りのみ、それも今はお休みだそうです。ちょっと残念です。

お子さんはお嬢さん2人、お孫さんは5人、意外にも(初対面で失礼ですが)女系家族で、5人目の5歳のお孫さんが初めての男の子だそうです。

お話の端々にスケールの大きさを感ずる池田さん、これからもそのリーダーシップで会社はもちろん、地元四国の農畜連携、水畜連携をけん引されることと実感しました。(編集部)

編集後記

明けましておめでとうございます。本号の記事でも紹介したように昨年11月には将来各ピラミッドを担う方が協会事務所にたくさん集ってくれました。ちょっと窮屈な思いをさせていただきましたが、賑わってよかったです。うれしい悲鳴でした。懲りずに近くにお越しの際は、ぜひ寄り道してください。

さて、本年は日本SPF豚協会創立55年、有限責任中間法人に始まる法人化20年、認定制度施行30年の節目の年にあたります。認定業務のクラウド化だけでなく、制度の内容など実際に関わる方の目を加えて、さらに充実させたいと思います。(岩魚)



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第94号 2024年1月1日発行(季刊)
発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail:j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人 鷺谷 敏一
編集人 小林 一彦